

JSAF 外洋東海第 103 回理事会・第 55 回代議員会議事録

1.開催日時 2024 年 2 月 8 日（金）午後 7 時 00 分～9 時 30 分

2.開催場所 Zoom によるオンライン会議

3.出席理事及び代議員

<理事会>

（本人出席）

大島茂樹、坂谷定生、岩瀬喜貞、川合紀行、三浦信郎、中村 孝、水越英次
奥田義明、結城光広、

（委任状出席）

大橋哲二、水谷節生、池本展弘

定足数 10 出席数 12（成立）

<代議員会>

（本人出席）

坂口龍哉、安井 理、坂本欽吾、三浦桂子

（委任状出席）

岡 吉樹、永井守久、大島和晃

定足数 5 出席数 7（成立）

（オブザーバー）

富川則之（監事）

4.議事内容

定刻になったので、大島会長議長となり理事会・代議員会の開会を宣す。

会長挨拶の後、議事録署名人として、岩瀬喜貞、奥田義明の両氏を指名後議事に入る。

1) 沖縄-東海ヨットレース 2024 について

実行委員長でもある大島会長から以下の説明があった。

1 月に私大島、坂谷、川合の 3 名で沖縄を訪問し、関係機関と調整をしてきた。

特にスタートが宜野湾から与那原に変わるので、マリーナ関係者、与那原漁協、中城海上保安部を中心に調整をした結果、特に問題はなく開催できるという状況です。

2) 第 34 回ラグーナデニスコーカップ・第 48 回東海チャンピオンシップの収支報告について

会長命により、坂谷専務理事から資料-1、資料-2 のとおり報告があった。

3) 2023 年 12 月 31 日現在の事業実績及び収支状況について

会長命により、坂谷専務理事から資料-3、資料-4-1、資料-4-2 に基づき報告があった。

本年は第 48 回目となる五ヶ所湾合同レースが参加艇不足で中止になった以外は予定通り 5 レースが実施された。

収支状況では、昨年度からの繰越金が 1,731,078 円あり、以前決定した友の会資金から 2,000,000 円を収入し、現状では総収入 7,843,178 円となっている。

支出状況は、レースを始めとする事業費が 3,484,105 円、事務局管理費が 1,184,782 円、その他 109,118 円で、総支出額は 4,778,005 円です。よって現状で残額として 3,065,173 円となっている。これから年度末までにまだ 1,000,000 円程は必要と思われるので、来年度への繰り越しは 2,000,000 円前後と思われる。

パールレース特別会計については、今年度事業費が 4,095,392 円で、104,608 円の剰余金が出たので、現状留保金（次年度への繰越金）は 1,781,885 円となっている。

4) 2024 年度レース日程について

会長命により、坂谷専務理事から資料-5 の日程案を示し、協議を行った。

本年は沖縄-東海ヨットレースの年で、全 7 レースとなる、これまで 5 月 3 日に開催してきた五ヶ所湾合同レースを今回の新しい取り組みとして、第 1 回武豊・津ヨットレースとして立ち上げる案となっている。エリカカップについては、長く 5 月第 4 週開催としてきたが、2023 年は地元のイベントとの関係から第 3 週とした。今後も第 4 週では大きなイベントと競合しそうなので、2024 年からは第 3 週に固定することとした。その他の日程は例年通りとした。

協議の結果、第 1 回武豊・津合同レースは 4 日開催の方が参加しやすいのではないかとということで、4 日の開催に修正。参加費はパーティー日含め 15,000 円とすることを確認した。（添付資料は修正したもの）

5) 2024 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

会長命により、坂谷専務理事から資料-6、資料-7 に基づき説明があった。

レース日程は調整した 7 レースとした。（添付資料は修正したもの）その他はほぼ前年並。収支予算書案は、沖縄-東海ヨットレースの開催年でもあるので、その分が増え総収入は 9,977,500 円、支出は次年度への繰越金 1,118,500 円を見込んで同額とした。

本件について会長理事会に諮ったところ、異議なく承認され、代議員会への提出議案とすることが決定した。

その後会長代議員会に対し、2024 年度の事業計画案及び収支予算案について諮ったところ、全員異議なく承認されここに 2024 年度の J S A F 外洋東海事業計画、収支予算が確定した。

6) J S A F 関係報告、各委員会報告について

岩瀬理事から理事選挙について、J S A F からは女性理事を 40% にすべく各地から女性を出してほしいと言われている。

これに関連し、水域理事はこれまでは外洋（東海、駿河湾）で 1 名、4 県連で 1 名だったのが、愛知、岐阜、三重、静岡の 4 県で 2 名と変更されたので、今後各団体の会長レベルでの調整に入る旨、坂谷専務理事から説明があった。

また、会費の徴収方法については前回の理事会では会員に冷たい方向に向いている説明をしたが、その後外洋からプッシュして 2024 年度については従来のまま、それ以降も銀行引落、銀行振込は残る見込みです。（坂谷説明）

<委員会報告>

計測・安全（川合理事）

計測では円安のため料金が高くなっているので、IRC,ORC とも値上げをした。

安全では OSR が改正年で大きく変更になった。メインセールにおいて 6 月以降に作成するものについては 40%以上のリーフ（3 ポイント）が必要となる。

レース委員会（三浦）

来週レースオフィサー講習会が開催され、東海からも何人か出ていただける。

今後レースに関係して、用語を世界標準にしようという流れで動いている。

ルール委員会（岩瀬）

JSAF のルール委員会の立場で、地方のローカルクラブのルールに関する知識のレベルを調査したいので、鬼崎ヨットクラブに協力を求めてきたが、主催に外洋東海名を入れたいようなので確認したいとの申し出があった。

協議の結果、主催は JSAF ルール委員会で協力を外洋東海鬼崎フリートあるいは鬼崎ヨットクラブとすることが望ましいということになった。

7) 外洋東海常任委員選挙告示について

坂谷専務理事から今年度で常任委員の任期が切れるので、理事会終了後選挙管理委員会 邨瀬委員長名でホームページ上に告示を脱したい旨説明があった。

全員これを了承。

8) 第 50 回臨時総会の開催方法について

総会の開催については、前回、前々回はコロナ禍でもあったので、ハガキで会費案内と併せて通知を出し確認してもらったが、今回どのような手法が適切なのか決めてほしい旨、坂谷専務理事から説明があり、検討の結果昨年同様ハガキで通知することが決定した。

9) その他

大島会長から能登地方の大震災に対し、JSAF から寄付の依頼が来ているが、どのような対応にするのか協議してほしいとの説明があった。

協議の結果、JSAF に対して寄付することとし、金額は 10～20 万円とすることが決定した。

21 時 30 分全議事終了したので、大島会長閉会を宣す

以上

作成者 坂谷定生

議事録署名人 岩瀬喜貞
奥田義明